

23.03.03 時事 2023-03-04 09:59 国際

「受けた打撃は修復不能」 = 「ハバナ症候群」巡り米批判 キューバ外相

【サンパウロ時事】キューバのロドリゲス外相は2日、首都ハバナの米大使館職員らに生じた健康被害について米情報当局が外国勢力による攻撃の可能性は低いと結論付けたことを受け、「うそに基づく極端な（対抗）措置によってキューバの家族が受けた打撃が修復されることはない」と厳しく米政府を批判した。ツイッター上で声明を発表した。

一連の健康被害は、在キューバ米大使館の職員らが2016年、ひどい頭痛などの症状を相次いで訴えたことで問題化し、「ハバナ症候群」と呼ばれてきた。

トランプ前米政権は、キューバが音響兵器かマイクロ波兵器を使って大使館員らを攻撃した可能性を疑い、外交団を縮小するとともに在米キューバ外交官の一部を追放。オバマ政権時代に「雪解け」に向かっていた両国関係は再び悪化した。

[時事通信社]

23.03.02 時事 外国勢力の攻撃「可能性低い」 = 米外交官らの健康被害 報道

2023年03月02日07時05分



在キューバ米大使館 = 2022年5月、ハバナ（AFP時事）

【ワシントン時事】米情報当局は、在外米国大使館職員らに生じた「ハバナ症候群」と呼ばれる原因不明の健康被害について、外国勢力による攻撃が原因の可能性は「極めて低い」と結論付けた。ロイター通信が1日報じた。

ハバナ症候群は、米国と対立関係にあるキューバの首都ハバナに駐在する米国の外交官らが2016年、ひどい頭痛や吐き気などの症状を相次いで訴えたことから注目を集めた。その後、世界中の外交官や情報機関職員らが同様の被害を報告し、敵対国家による電磁波などによる攻撃の可能性が指摘されていた。

ロイターによると、情報当局の調査の結果、米国と敵対する外国勢力がこの健康被害を引き起こす秘密兵器を持っているという信ぴょう性のある証拠は見つからなかった。情報当局は地球外生命体による攻撃の可能性も検討したが、それもないと断定した。

23.03.02 毎日外交官ら発症のハバナ症候群「外国の攻撃の可能性低い」 米情報機関

毎日新聞 2023/3/2 09:18 (最終更新 3/2 09:19) 707 文字



米国の国旗・星条旗 = 2018年1月、高本耕太撮影拡大

米国家情報長官室は1日、世界各地の米大使館で働く外交官らが原因不明の健康被害「ハバナ症候群」を訴えた問題で「米情報機関の大半が外国の敵対勢力による攻撃の可能性は低いと結論づけた」と発表した。明確な原因は不明だが、ヘインズ国家情報長官は1日の声明で「元々の健康状態、一般的な病気、環境などに起因する可能性がある」と分析している」と述べた。

ハバナ症候群は2016年、キューバの首都ハバナの米大使館で働く職員から初めて報告された。耳鳴りに続いて頭痛やめまいなどの症状が起き、後遺症が残ることがある。米メディアによると、16年以降、中国、ドイツ、ロシアなどの在外公館職員らが被害を訴えた。専門家らは、高周波の電磁パルスや超音波などの「指向性エネルギー攻撃」の可能性も指摘していた。

23.03.02 東京 ハバナ症候群、攻撃説を否定 米情報機関、持病や環境か

2023年3月2日 07時39分 (共同通信)

【ワシントン共同】世界各地に駐在する米外交官らが「ハバナ症候群」と呼ばれる体調不良を訴えた問題で、国家情報長官室は1日、各情報機関の調査結果として、ロシアなど対立する国の攻撃の可能性は「かなり低い」との見解を示した。マイクロ波など「指向性パルス高周波エネルギー」による攻撃も疑われたが「持病やそのほかの一般的な病気、環境が原因とみられる」とした。

ワシントン・ポスト紙によると、中央情報局(CIA)など七つの情報機関が約1年にわたり約千件の症例を調査。対立する国による攻撃の可能性について5機関が「かなり低い」、1機関が「低い」と結論付けた。

23.03.02 共同 ハバナ症候群、攻撃説を否定 米情報機関、持病や環境か

2023/03/02

【ワシントン共同】世界各地に駐在する米外交官らが「ハバナ症候群」と呼ばれる体調不良を訴えた問題で、国家情報長官室は1日、各情報機関の調査結果として、ロシアなど対立する国の攻撃の可能性は「かなり低い」との見解を示した。マイクロ波など「指向性

パルス高周波エネルギー」による攻撃も疑われたが「持病やそのほかの一般的な病気、環境が原因とみられる」とした。

ワシントン・ポスト紙によると、中央情報局（CIA）など七つの情報機関が約1年にわたり約千件の症例を調査。対立する国による攻撃の可能性について5機関が「かなり低い」、1機関が「低い」と結論付けた。

23.03.03 朝日 夕刊「外国勢力関与、可能性低い」 ハバナ症候群巡り、米が結論

2023年3月3日 16時30分

米国の外交官らが原因不明の頭痛やめまいなどを相次いで訴えた「ハバナ症候群」について、米国の情報機関は、外国勢力が関与した可能性を「極めて低い」と結論づけた。米紙ワシントン・ポストが1日、独自に報じ、国家情報長官室も同様の報告書を公表した。

「ハバナ症候群」は2016年にキューバの首都ハバナで勤務...

23.03.02 読売 謎の健康被害「ハバナ症候群」、外国勢力の関与「可能性非常に低い」... 米国家情報長官室

2023/03/02 14:54

【ワシントン＝蒔田一彦】米国の情報機関を統括する国家情報長官室は1日、世界各地の米大使館などで外交官らが「ハバナ症候群」と呼ばれる原因不明の健康被害を訴えている問題について、大半の情報機関が「外国の敵対勢力が関与している可能性は非常に低い」と結論付けたとする調査結果を公表した。



ハバナの米国大使館 = ロイター

七つの情報機関のうち5機関は、外国の敵対勢力の関与について「可能性は非常に低い」と判断し、残る2機関も「可能性は低い」とした。報告されているような健康被害をもたらす兵器や装置を外国が所有していることを示す信頼できる証拠もないとし、症状には持病や環境的な要因などが考えられると指摘した。

ハバナ症候群は、キューバの首都ハバナ駐在の米中央情報局（CIA）職員らが2016年、頭痛や耳鳴りなどの体調不良を訴えて発覚した。その後、各地で同様の報告が相次ぎ、ロシアなどによる電磁波攻撃の可能性も指摘されていた。

カリーヌ・ジャンピエール大統領報道官は1日の記者会見で「米政府職員の健康と安全に対する大統領の責務は揺るぎない」と述べ、今回の判断にかかわらず、健康被害を訴える人たちへの支援を続けると強調した。

23.03.02 BBC ハバナ症候群、敵対外国勢力による可能性は「非常に低い」 米情報当局が報告

2023年3月2日



US Embassy in Havana, Cuba 画像提供,GETTY IMAGES

ハバナ症候群は、2016年にキューバ・ハバナのアメリカ大使館職員に最初に確認された

世界各地で勤務する米外交官が訴えている神経系の症状「ハバナ症候群」の原因について、米当局は1日、敵対的な外国勢力によるものである可能性は「非常に低い」との見解を示した。

ハバナ症候群にかかった米軍関係者は、めまいや頭痛、痛みを伴う激しい耳鳴りがしたと報告している。

ハバナ症候群をめぐるのは、ロシアや中国などの国が背後にいるのではないかとの憶測に拍車がかかっていた。

アメリカは現在、こうした説を否定しているが、それ以上の説明はしていない。

米国家情報長官室（ODNI）は1日、90カ国以上で確認された1500件以上もの「特異な健康事案」を調査した、7つの政府機関の見解を反映した評価を公表した。この内容は機密扱いではない。

7つの機関のうち5つは、「入手可能な情報は一貫して、報告を受けた事案の原因にアメリカの敵対勢力が関与していないことを示している」とし、敵対勢力の関与について「可能性が非常に低い」としている点で一致している。

一方で、各機関の自らの見解に対する自信度にはばらつきがあった。ODNIの報告書は、2つの機関は「中程度から高い」自信をもっているとしたが、3つの機関は「中程度」の自信があったとした。

「1つの機関は、外国の敵対者が何らかの役割を果たした可能性は低いと判断した。ただ、この判断に関しての自信度は低い」と、ODNIは記している。

SD 以下の記事は、なぜ出されたのか？

22.02.03 BBC ハバナ症候群、「電磁波」が原因か 米専門家委が報告

2022年2月3日

ゴードン・コレラ安全保障担当編集委員



ハヴァナ症候群は、キューバ・ハバナのアメリカ大使館職員に最初に確認された

アメリカの情報機関の専門家委員会は2日、多くの米外交官が見舞われている「ハバナ症候群」の一部症例について、電磁波によって「説得力のある説明」がつくと発表した。同症候群をめぐるのは、何らかの機器や精神的なものが関係している可能性について、議論が巻き起こっている。

専門家委員会は今回、一連の症状は「本物で否定しがたい」ものだとした上で、外部要因によって引き起こされた可能性があるとして指摘した。

一方で、誰が背後にいると考えられるのかには踏み込んでいない。

ハバナ症候群は、世界各地で勤務する米外交官が訴えている神経系の症状。2016～2017年に、キューバの首都ハバナのアメリカ大使館職員に最初にみられたことから、「ハバナ症候群」と呼ばれている。

当初は、アメリカ政府内でもその存在が否定されてきたが、2021年以降、政府はこの症状を深刻にとらえるようになり、外交官などに報告を促していた。これまでに、各地から少なくとも1000件もの報告が寄せられているという。

米中央情報局（CIA）は今年1月、外国勢力による攻撃である証拠はなく、多くの症例はストレスや自然的な要因で説明できるとの見解を示した。その一方で、説明できない症例も数多く残っていると認めていた。

環境や健康では説明できず

今回の専門家委員会の調査では、ある特定の症状を訴えているグループ（人数は公表されていない）に注目し、1000件以上の極秘文書や証言を精査した。

その結果、このグループの症例は環境や健康状態からは説明できず、何らかの外的要因や機器が原因の可能性があることが分かった。情報当局の調査関係者からは「多くのことが判明した」という声も出ている。

委員会は、ハバナ症候群に特有の4つの「中核的特徴」を特定。その中には、特定の方向、あるいは場所から何かがやって来るような感覚や、圧力を感じたというものもある。

また、症状の原因として信号音、化学的・生物的薬剤、電離放射線、自然的・環境的要因、電波や電磁波の5項目を仮定し、報告された症状を引き起こすような隠された機器がないかを調べた。

報告書によると、精神的・社会的な要因だけでは症状を説明できないが、それらが被害者の抱える問題を悪化させている可能性はあるという。さらに、環境要因や健康状態からも症状を説明できないと指摘した。

また、「この独特の神経・知覚的な症状のいくつかの側面からは、これが機能的神経障害によるものである可能性はみられない」と述べ、「外部からの刺激」が要因であると分析している。

その上で、中核的特徴について、無線周波数帯の電磁波で「説得力のある説明」ができるとして指摘。ただし、情報には欠落した部分が残っていると認めている。



The US embassy in Paris, where a number of American diplomats reportedly fell sick with 'Havana Syndrome' in January

2022年1月、在仏アメリカ大使館で複数の外交官がハバナ症候群の症状を訴えた

米外交官4人、欧州で「ハバナ症候群」に = 米報道

米外交官らがキューバで体調不良、マイクロ波攻撃の可能性 = 米報告書 (2020年12月)

キューバの米大使館職員16人、「音響攻撃」被害 (2017年8月)

報告書によると、標準規格ではないアンテナを使えば、人体に影響を及ぼすことができるという。こうした機器は隠されており、それほど大きな電力を要しない。また、空気中を伝わり、建物の壁などにも邪魔されない。

BBCは2021年、このようなマイクロ波がハバナ症候群の原因になっている可能性について取材し、ドキュメンタリーを放映した。

報告書では、どんな機器である可能性があるのか、加害や監視の意図があるのかといった詳細は指摘されていない。また、誰がこうした活動を行っている可能性があるのかも調査範囲に含まれていなかった。

米政府を含む多くの人々が、ロシアの活動かもしれないと考えている。外交の場でも懸念が伝えられているが、この憶測を裏付ける決定的な証拠はない。

委員会はハバナ症候群を説明できるその他の要因として超音波をあげたが、外部から建物内にまで到達しづらく、標的に近づく必要があるという。

また、症状の解明のために、標準化されたデータ収集などさまざまな対策を推奨している。ただし、検出技術などについて書かれた部分は極秘扱いとなっている。

調査を主導したアヴリル・D・ヘインズ国家情報長官とCIAのウィリアム・J・バーンズ長官は共同声明で、今後も真実を追求していくと約束した。

ホワイトハウスの報道官はBBCに対し、報告書の内容を歓迎していると話した。

この報告書の意義は？

今回の報告書によって、ハバナ症候群をめぐる謎は新たな急展開を見せた。

ハバナ症候群の原因については、激しい論争が巻き起こっている。CIA が1月に発表した研究を受けて多くの人々が、おそらく敵対行為ではなく、心身の健康状態によるものだと結論付けた。

症例の大半については、これが正しいのかもしれない。

しかし専門家委員会の報告書は、少なくともある特定の症例に関しては、敵対行為によるものの可能性があり、電磁波・マイクロ波が原因と思われると再び指摘した。

その結果、何らかの監視が行われていてそれが被害を及ぼしているのか、それとも兵器が使われているのか、そうであれば誰が関わっているのか という疑問がわいてくるだろう。

(英語記事 Havana Syndrome may be caused by ‘ pulsed energy ’)

23.03.02 Forbs 怪現象「ハバナ症候群」が敵国の攻撃の可能性は低い、米当局

Ana Faguy | Forbes Staff

世界中の米国の外交官らを襲う「ハバナ症候群」と呼ばれる健康被害について米国の情報当局は、外国の敵対勢力が関与していた可能性は低いとの結論を出したことが、3月1日に報じられた。

ハバナ症候群が最初に報告されたのは2016年で、キューバの首都ハバナにある米大使館職員が、奇妙な音を聞いた後、頭痛や吐き気、めまい、記憶力低下などに襲われたと報告した。その後、これまでに約1500件の症例が報告されている。

米国の7つの情報機関はその後の数年にわたりこれらの症例に関する調査を行ったが、共通の条件は見つからなかったと、当局者はワシントンポスト紙とCNNに語っている。

ポスト紙によると5つの情報機関が、ハバナ症候群がロシアのような敵対国による攻撃の結果であるとは「非常に考えにくい」としており、ある匿名の機関は「考えにくい」と述べ、別の機関は結論を出すことを避けたという。

この症状は、敵対国による電磁波や高周波を用いた兵器や、監視テクノロジーによって引き起こされた可能性があると考えられていたが、ある情報当局者はポスト紙に、これらの見方はいずれも調査の結果除外されたと語った。

2016年にキューバでこの症状を発症した人々の一部は、後に行われた医療検査で、脳組織に永続的な損傷を受けていたことが判明した。またオーストリア、中国、グルジア、ドイツ、インド、ロシア、台湾、ベトナムの米政府の関係者も、後に同様の経験をしたと報告した。

発症した人々の多くは、この病気がロシアなどの敵対国による攻撃によって引き起こされた可能性があるとして主張した。この説を裏づける直接的な証拠は発見できていないが、昨年開催された情報委員会では、いくつかの症状が指向性のエネルギーによって引き起こされた可能性があるとしていた。

しかし、情報機関は、外交官らが訴えた体調不良が恐らく本来からあったものか、生活環境や従来からの病気が原因であると分析した。

中央情報局（CIA）は、今から約1年前にハバナ症候群の1000例の大半が敵国によるものではなく、環境的な要因や未診断の病状、ストレスが原因であると発表していた。バイデン大統領は2021年10月、この症状を発症した外交官や政府関係者に政府の支援金を支払う法案に署名していた。

（forbes.com 原文）

23.03.02 ロイター ハバナ症候群、外国敵対勢力が関与の「可能性乏しい」=米調査報告

By Reuters Staff

[マクリーン（米バージニア州） 1日 ロイター] - 世界各地の米外交官らが「ハバナ症候群」と呼ばれる原因不明の体調不良に見舞われている問題で、外国の敵対勢力が関与している「可能性は極めて乏しい」とする米情報機関の詳細な調査報告内容が1日、公表された。

ハバナ症候群が最初に報告されたのは2016年。キューバの首都ハバナにある米大使館職員が頭痛や吐き気、めまい、記憶力低下などを訴えた。その後これまでにさまざまな米政府機関から約1500件の症例が届いている。

こうした中で情報機関が2年余り前から米国を含めた90カ国以上で調査を実施。ある情報機関の当局者によると、当初は宇宙からの何らかの影響も考えられたが、これは否定された。

そして今回公表された調査報告には「情報コミュニティーに属する大半の政府機関は、外国の敵対勢力による仕業である可能性は極めて乏しいとの結論に至った」と記され、米国の敵対者が電磁波の発射装置などそれらしい武器を保有しているという信頼に足る証拠はないとの見解が示された。

情報機関は、外交官らが訴えた体調不良は恐らく本来からあったものか、生活環境や従来からの病気が原因だろうと分析。医療や環境、社会それぞれの因子から多くの症例が説明できることも分かり、そうした結論を後押ししていると述べた。

23.03.02 CNN

「ハバナ症候群」、外国の敵対勢力とは関連付けられず 米情報機関分析

2023.03.02 Thu posted at 14:30 JST



キューバの首都ハバナの米国大使館前/Adalberto Roque/AFP/Getty Images/FILE

(CNN) 世界各地で米当局者に原因不明の症状を引き起こしている「ハバナ症候群」と呼ばれる一連の事例について、米国の情報機関は、外国の敵対勢力と関連付けることができず、同症候群が米国の敵対勢力による作戦の結果である可能性は低いと判断していることがわかった。1日に公開された情報分析で明らかになった。

ハバナ症候群については数年前に確認されており、今回の分析結果は、米国の敵対勢力による標的を絞った作戦との仮説を覆すものとなった。

今回の分析結果は、米中央情報局(CIA)が昨年取りまとめた中間報告と類似している。CIAの中間報告では、「異常な健康被害」がロシアやその他の外国の行為者による「持続的で世界的な作戦」によって引き起こされた可能性は低いとされていた。

今回の分析ではさらに踏み込み、外国の敵対勢力が不可解な事案を引き起こすことが可能な兵器や装置を保有しているという信頼できる証拠はないとしている。

当局者は、医学的な分析でも敵対勢力の関与から離れる方向に向かったと説明している。

ハバナ症候群が最初に見つかったのは2016年で、キューバの首都ハバナに駐在する外交官が、04ランド社レポート、ウクライナからの早期撤退を提起

ランド社といえば米国の保守勢力を代表する調査会社です。そこが最近レポートを発表しました。題名は「長期戦を回避せよ」

レポートはウクライナから早く撤退すべきだと提言しています。なぜならそろばんに合わないからです。いかにも富裕層らしく逃げ足が速い。しかし米国の支配層内部にあきらかな亀裂が走っていることは間違いなさそうです。

05 NYタイムズ_ロシアは制裁に耐えるだろう

ロシア経済の縮小幅は昨年1年間で3%強にとどまった。開戦当初は15%縮小すると予測されていました。

その理由が色々分析されています。論文の最後で、むしろ崩壊の危機にひんしているのはウクライナ経済だとし、ウクライナ経済を再建するために必要なのは即時停戦だと結論しています。

06 B ノートン「国連総会_賛成 141 票の秘密_ミュンヘンの脅迫

国連総会の直前に行われたミュンヘン安全保障会議。米欧の政策責任者は「中立は選択肢にない」と叫び、「グローバル・サウス」を脅迫した。そして、「これは、来週（国連総会で）、世界に対して行う嘆願でもある」と同調を迫りました。

などを一斉に報告したことで表面化した。その後も、コロンビアの首都ボゴタやオーストリアの首都ウィーンなど世界各地で同様の事案が報告された。

当局者によれば、今年報告された事案を含め米政府全体では96カ国で約1500件が報告されている。しかし、去年は報告件数が大幅に減少したという。

22.01.12 日経 米 CIA、「ハバナ症候群」外国攻撃を否定

2022年1月22日 2:00 [有料会員限定]

【ワシントン=共同】世界各地に駐在する米外交官らが「ハバナ症候群」と呼ばれる原因不明の頭痛などの体調不良を訴えてきた問題で、米中央情報局（CIA）は20日までに外...